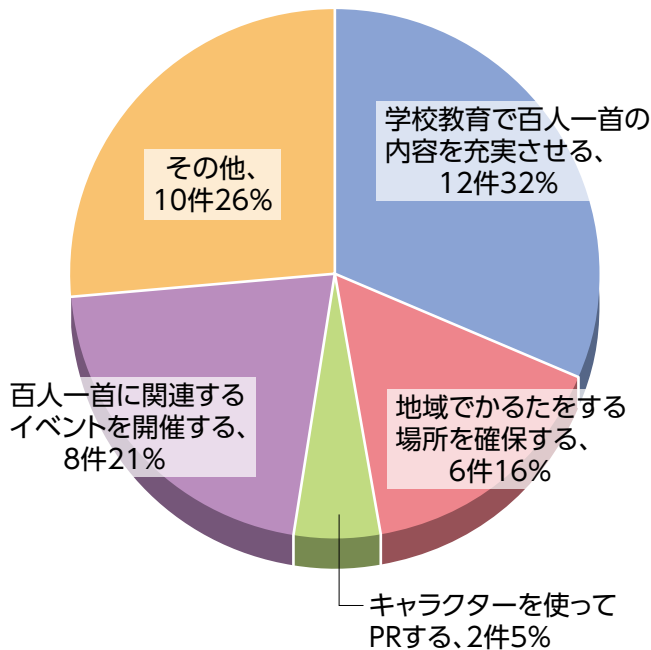




前回の広報うつつのみやプラス「百人一首」に対して20人の市民の皆さんから意見をいただきました。代表的なものをご紹介します。

(1)百人一首のさらなる普及に必要なことは何だと思いますか(複数回答可)。



■その他の主な意見

- ▽中学校・高等学校で部活動を作る。学校行事などで大会を開催する(西原町・40代)。
- ▽駅東の遊歩道に百人一首に関する掲示を行なう。また、和歌の投票箱などを設置する(大和1丁目・60代)。
- ▽かるたなどで楽しく遊べることを幼い頃から教えて、苦手意識を持たせないようにする(西川田南1丁目・40代)。
- ▽蓮生の銅像を建立する(鶴田町・80代)。



(2)百人一首のまち宇都宮をアピールするために必要なことは何だと思いますか。

- 駅前や二荒山神社近辺の歩道に百人一首の歌・作者を印字した版を埋め込む(鶴田町・70代)。
- 市内で百人一首の大会をもっとたくさん開催する(中岡本町・10代)。
- 俳句コンテストなどとタイアップしていく(中央3丁目・40代)。
- 全国大会を毎年実施する(清住2丁目・50代)。

前回の広報うつつのみやプラス「百人一首ゆかりの地宇都宮」の概要



百人一首誕生秘話

百人一首の誕生には、鎌倉時代に宇都宮で活躍した殿様である宇都宮城5代城主宇都宮頼綱(後に蓮生と改名)の存在が欠かせません。頼綱は、鎌倉幕府から謀反の疑いをかけられてしまい、やむを得ず出家し京都に移り住むことになりました。そして、京都で藤原定家という歌人と親しくなります。当時、和歌をしたための色紙をふすまに貼ることが流行っており、蓮生は、自分の別荘に貼る色紙を選ぶように定家に依頼。こうして選ばれたすばらしい和歌が、現在の小倉百人一首として伝えられています。

百人一首大会

平成26年11月、本市で初めて、全国かるた競技宇都宮大会を開催しました。全国大会を本市で開催することで、百人一首ゆかりの地宇都宮を全国に発信する大きなきっかけになることが期待されます。全国かるた競技大会は、一定の成績以上の人が昇段できる、レベルの高い競技が繰り広げられます。また、気軽に参加できるうつつのみや百人一首市民大会は今年度で20回目を迎え、参加者数600人を超えるなど、日本一の開催規模を誇っています。

広報うつつのみやプラスや政策特集は、皆さんと一緒に考えていただきたいテーマを取り上げ、年4回編集します。



料金受取人払郵便



差出有効期間
平成28年8月
15日まで
【切手不要】

3 2 0 8 7 4 0

(受取人)
宇都宮市旭1丁目1番5号

(宇都宮市役所)
宇都宮市総合政策部広報広聴課

行



3 2 0 8 7 4 0

3

氏名	住所	
年齢	歳	職業

差し支えがなければ記入してください。広報紙で意見を紹介する際には、氏名の記載はしません。なお、はがきの情報については、目的以外には使用しません。